

子どもたちの未来のために 「情報活用能力」の育成を

名古屋市情報教育研究会
会長 安保 利秋（諏訪小）



学習指導要領では、「情報活用能力」を言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けています。本研究会では、この「情報活用能力」の育成を目指して研究を進めてきました。特に「情報活用の実践力」の育成においては、情報の収集・判断・表現・処理・創造、そして、発信・伝達と振り返りという「一連の流れ」を大切にしながら、研究の基本にして、子どもたちの力を着実に伸ばしてきました。

情報教育に携わる私たちは、「一連の流れ」のどこかに重点を置いて研究に取り組むことはありますが、一部だけを取り上げて指導することはありません。それは、それぞれが独立しているのではなく、かかわりが密であり、単独での指導では「情報活用の実践力」が十分に育成されないからです。

これからの社会では、「情報活用能力」はどんな職業に進んでも基盤となり、未来を担う子どもたちにとって大切な力となります。名情研の本年度の研究の中心となる「主体的・対話的で深い学びにつながる情報活用能力の育成」を目指し、本市の子どもたちの健全育成に寄与していきましょう。

名情研総会

今年度の総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年の集会形式での開催を中止し、紙面審議としました。審議の結果、全ての提案事項について承認されました。

月刊「視聴覚教育」

月刊「視聴覚教育」（日本視聴覚教育協会）に、今年度、名情研からは以下の皆さんの実践事例が掲載されます。

5月号：長谷川 堅亮（御園小） 7月号：牧 邦彦（楠西小）
9月号：安部 達也（大和小） 11月号：後藤 宗（滝川小）
1月号：正親 直也（陽明小） 3月号：園木 裕貴（緑小）

日本視聴覚教育協会のWebページから、目次の閲覧や、冊子の購入を行うことができます。

<http://www.javea.or.jp/mag/index.html>

今年度の研究

令和2年度 名古屋市情報教育研究会 研究主題

「子どもたちの学びを深める情報教育」

—主体的・対話的で深い学びにつながる情報活用能力の育成—

研修会・研究発表大会のお知らせ

今年度は、50回以上の開催実績のある研修会が中止となっています。開催予定の会についても、今後の感染症の拡大状況によって予定を変更する可能性があります。

- ★学習工学セミナー 中止
- ★東海北陸地方放送教育研究大会・愛知県放送教育特別研究会(放送特研) 紙面発表
- ★名情研 全体研修会 中止
- ★名情研 研究発表大会・愛知県学校視聴覚教育研究大会 紙面発表
- ★名情研 NHKメディア研究グループ研修会 開催日時未定

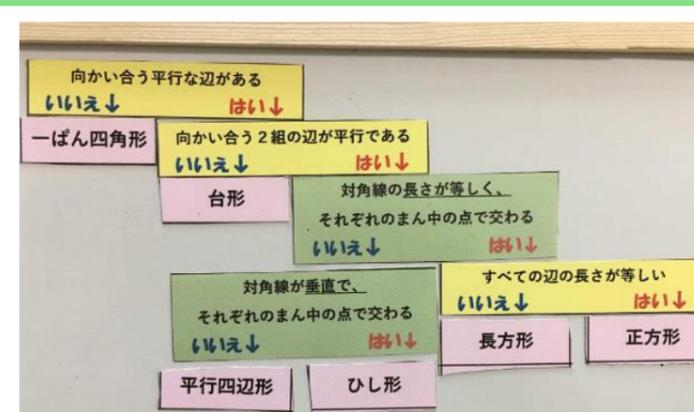
「名情研Web」「研究集録Web版」のご案内

「名情研Web」では、「研究集録Web版」ページで会員の実践の概要を公開しています。昨年度の実践から、「プログラミング」「情報モラル」に関する実践を紹介しています。

★小4算数「垂直・平行と四角形」

順次処理や条件分岐を使って四角形を種類分けする図（フローチャート図）をグループで考え、四角形を分類した。

図を考えたり、頭の中に描いた四角形を当て合う「テレパシークイズ」を行ったりして、子どもたちは、「平行」「垂直」「対角線」「角」といった言葉を何度も使いながら、四角形の定義やその性質について理解を深めることができた。



★小3総合「プログラミング的思考を身に付けよう」

てんびん型ロボットと、2つの物の重さを比べるプログラムから、重さが異なる4つの箱を重さ順に並べ替えるプログラムを作成した。

「作る→試す→確認する→改善する」サイクルを繰り返して、意図した動きを実現させるための手順を考えることができた。



★小3総合「ゲームの使い方を考えよう」

文部科学省が提供する動画を視聴し、ゲーム障害の仕組みについて考えた。「成長」「役割」といったゲームをやめられなくなる仕組みについて理解し、ゲームをする時間に関する約束を考えることができた。



「名情研の活動って？」
「ICTを生かしたい！」
「実践が見たい！」

「名情研Web」では、名情研会員以外の方にも役立つ情報を発信しています。

<http://www.meijoken.com/>

名情研 検索